

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	津波被害救出活動中における再来津波の危険性について。
3. 体験した事例の中心的要素	津波被害による逃げ遅れた住民の救出活動中、突然の津波襲来により巻き込まれそうになったもの。
4. 体験した事例の原因・理由	大規模及び広範囲の災害のため、活動人員並びにPFD等の資器材が不足し、津波に対する監視人員の配置が出来なかった。また、夜間の停電下での活動で視界が悪く、携帯無線機が通じない不感地帯であったため、ポンプ車に待機していた隊員が車載無線機により本部からの無線を傍受。車載スピーカー及びサイレンを使用し、津波再来の注意喚起を実施したが、現場が広範囲のために活動隊まで届かなかった。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。 状況判断に問題があった。 行動の意思決定に問題があった。 行動の実行に問題があった。
------------------	--

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成23年3月11日 午後11時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋外：津波被害を受け、住宅等の瓦礫が散乱した沿岸部の地域。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	転倒、激突、崩壊・倒壊(に巻き込まれる)、切り・こすれ、おぼれ、感電、退路の消失、寸断
7. 事例体験時の活動	救助現場活動中期
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	人命検索・救出
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[27]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[1]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[48]歳、勤続年数[30]年、現場経験年数[29]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [初めて]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[28]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [機関員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	29歳隊員(士長)、25歳隊員(士)、53歳他隊車長(司令補)、41歳他隊隊員(司令補)

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A、B、C他	津波被害により、倒壊又は浸水した家屋に取残された要救助者の検索。	
経過2	他隊隊員	検索中に目前に迫る津波を確認。	
経過3	B、他隊車長	高台への退避を命令。	
経過4	A、B、C他	山の斜面に一時退避。	
経過5	B、C、隊員2名	要救助者の検索再開。	
経過6	A、他隊車長、隊員	要救助者2名及び警察官と共に待機。	
経過7	B、C、隊員2名	要救助者4名を発見。安全区域まで誘導。	
経過8	A、他隊車長、隊員	要救助者2名を安全区域へ誘導。	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難退避がうまくいった。現場周辺の地理を知っていた。指揮者が適切に指示した。他隊(員)から適切な注意を受けた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

3月11日 ヒヤリハット事例図



○はB、C、隊員2名を示す。

●はA、他隊車長、他隊隊員を示す。